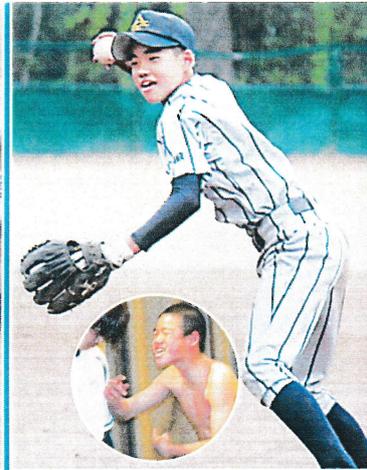
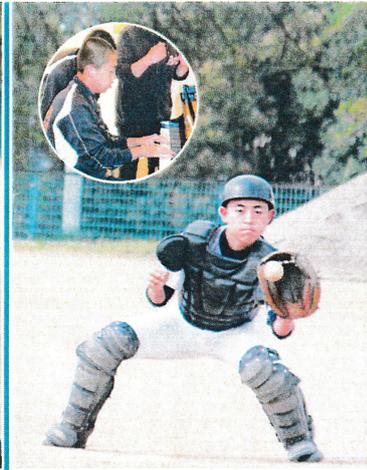


◆**梶原政司**（かじわら・まさよ＝横浜商大高一山梨学院大出身）横浜青葉ボーイズを率いる熱血監督。就任10年目で、過去に東日本大会準優勝、全国大会出場など輝かしい実績を持つ。喜怒哀楽を前面に出し、生意気盛りの中学生を成長させてくれる。練習や采配のみならず、グラウンドや試合相手の手配、進路相談、すべてにフル回転してくれる超スーパー監督。大きな体に似合わぬ、ちょっと寂しがり屋の一面も愛される要因になっている。梶原野球が全国を制する日も近い。180㍍、0.1㍍（推定）。右投げ左打ち。



◆**久高雄之**（ひさとみ・まさゆき＝富士見台ウルフ出身）走攻守にバランスが取れた頼れるキャプテン。いち早く定位置をつかみ、33期の全国大会出場にも貢献した。勝負強い打撃、鉄壁の外野守備で何度も勝利に導いた。学業もトップで、引退後の夏休みににはホワイトボードを使って同級生に数学を教えるなど、常に中心にいた。投を破った「乳首ドリルすんのかい、せんのかい」の芸でチームを盛り上げた功績も欠かせない。高校でも文武両道を貫き、いつまでも仲間を引っ張ってほしい。167㍍、58㍍。右投げ左打ち。



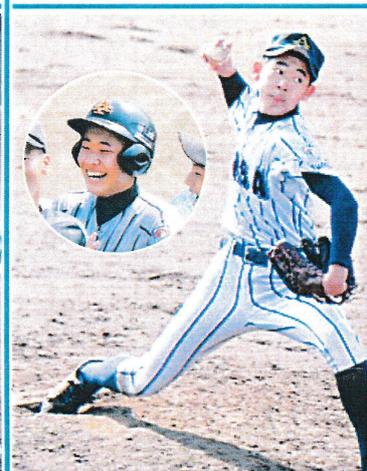
◆**上野風真**（ろえの・そう＝大谷戸小田中子供会野球部出身）さわやかな笑顔でチームを守るチーム一のしっかり者。副主将としてまとめ役を担った。投手の持ち味を引き出し気持ちよく投げさせる捕手。チーム最高の出塁率はバットだけでなく、体を張った死球でも稼いだ。音楽センスも抜群で、ピアノを披露して仲間を感動させたのみならず、カラオケでも澄んだ声で魅了した。高校では優しさに厳しさを加え、投手を引っ張ってほしい。甲子園でもマスク越しに美声を響かせる日が楽しみだ。170㍍、71㍍。右投げ右打ち。



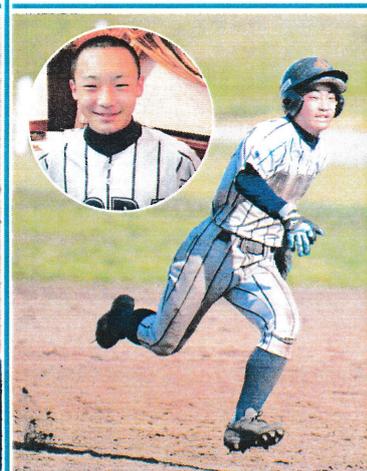
◆**目黒拓真**（めと・あきた＝南加瀬町野球部出身）チームきつての元気者で、試合前のパフォーマンスを仕切り、皆のテンションを上げてくれた。三塁コーチとしても少ない得点チャンスを存分に生かした。34期で最初に入団し、1年春の合宿ではあいさつができなくなるほど声をからせて仲間を引っ張った。また、ベルトを忘れた体験選手に自分のものを貸してあげるなど優しい性格は皆に愛されていた。貴重な左腕投手として将来性は十分。高校でもプレーと声でチームを元気づけてほしい。165㍍、50㍍。左投げ左打ち。



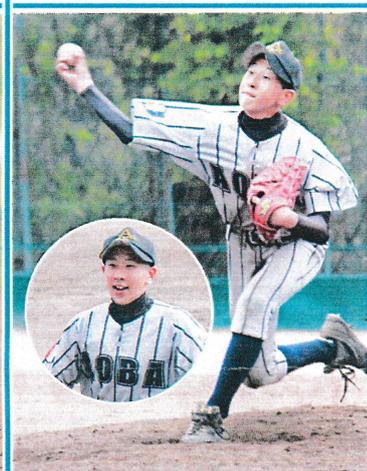
◆**浦野裕太**（うらの・けいた＝東高津リバスターズ出身）。攻守ともにセンスあふれるプレーが持ち味だった。ただ、打撃の好調な時は守備力が低下する特性があった。一時は投手に憧れ、小瀬コーチ直伝のアンダーローに挑戦するも、練習試合での登板時に制球が定まらず断念した。実は肉嫌いで春合宿で恒例の豪華バーベキュー大会（杉浦コーチ提供）では、常に顔をしかめていた。肉に向けた鋭い視線を白球に向けよう。引退後に身長伸びが顕著で、高校で大きな飛躍が期待される。167㍍、52㍍。右投げ右打ち。



◆**松村清**（まつむら・じょう＝北加瀬原子ども会野球部出身）エースで4番と、投打の要を担った。キレイな変化球と制球のいい投球が持ち味。経験を重ね、苦しい試合でも踏ん張れる、精神的にもたくましいエースに成長した。打撃も数多くヒットフライを経て、スタンドまで届くようになった。野球で養った視野の広さは、球場外でかわいい女の子を探す目にも役立っている。母譲りの長い足を徹底的に鍛え、父親りのスナップの強さを生かし、神奈川代表する投手に育ててほしい。178㍍、67㍍。右投げ左打ち。



◆**飯島清貴**（いじま・たかき＝市ケ尾シャークス出身）抜群の俊足が武器の1番打者。数え切れないボールヘッドを差し引いても、チームの得点力に大きく貢献した。スリリングな三塁守備も試合の見どころだった。2年冬には太い眉毛をいきなり剃って、チームの話題を一身に集めた。宴会芸には積極的で、女装して大好きな榎坂46のダンスを踊ったこともある。欠点の多い選手だが、身体能力は高く魅力も持ち合わせている。意識に変化が出てくれれば、高校で大きな飛躍が期待できる。165㍍、70㍍。右投げ右打ち。



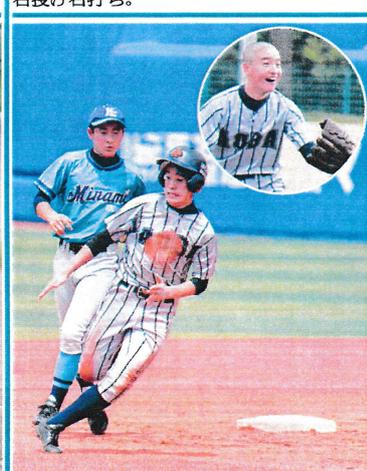
◆**吉田由伸**（よしだ・よしのぶ＝南加瀬少年野球部出身）技巧派投手で、クセのある球を武器に強打者を幻惑させた。監督不在の試合で必ず好投する特徴もあった。どちらに曲がるか分からない変化球を自ら操れるようになれば、おもしろい投手になる。チーム一の芸達者で、宴会の出し物では常に中心にいた。いつも明るく、周囲を笑顔にする力があつた。走り込みを欠かさず、足腰の強さは際立っており、高校での活躍が楽しみ。由伸といえば高橋より吉田の時代がくるはずだ。166㍍、53㍍。右投げ右打ち。



◆**松尾隼司**（まつお・しゅんじ＝あざみ野ビーバース出身）中ボーズ戦との接戦で決勝タイムリーを放つなど勝負強い打撃が光った。主に遊撃を守ったが、投手でも奮闘した。バントにもこだわるオシャレランターでスタイルも抜群だが、走る姿だけはイケてない。1年時に交通事故で約5分吹き飛ばされながら、ほぼ無傷という幸運を持つ。一方で朝食のグラタンで足をやけどする不運もあった。高校では喜怒哀楽を出し気遣いあふれるプレーを期待したい。精神面の成長で必ず開花する選手だ。172㍍、58㍍。右投げ右打ち。



◆**西田大輔**（にしだ・だいすけ＝リトルグリーンズ出身）体は大きくないが、パンチ力がある打撃が魅力だった。長距離走では常にトップを独走する持久力と根性が際立っている。大輔という呼びやすい名にもかかわらず、監督からは「トシユキ」と呼ばれていた。また、折れたバットを股間からドーンと突き出す一発芸は、チーム内で高く評価されていた。反抗期がクローズアップされたが、いつも2人の弟をかわいがり好青年。高校では体を大きくし、強気なプレーに磨きをかけたい。161㍍、50㍍。右投げ右打ち。



◆**太田陽也**（おおた・はるや＝いずみ野ビクトリーズ出身）遅れて入団したが、明るく気さくな性格で、すぐチームのムードメーカーになった。パワーあふれる打撃で走者を返すのみならず、苦しい試合展開の中でチャンスメークする場面も多かった。また、「青葉の小栗旬」と呼ばれる笑顔は、一部で抜群の人気を誇った。体も大きく成長中。ついに母の願いでもあった「母の体重超え」も果たし、高校では長距離砲として期待できる。魅力の笑顔を忘れず、父以上の迫力を持つ男になれ。170㍍、74㍍。右投げ左打ち。



◆**前田航希**（まえだ・こうき＝たまプラーザボーイズ出身）真面目一徹で、曲がったことが大嫌いだ。帽子のツバまで一直線の熱血漢。34期で最後に加入したこともあって運命があつたのか、チーム内ではおとなしい面が目立った。だが、実はお笑い好きで芯の強いナイスガイだ。34期として最高の大会になった横浜市長旗杯で活躍すると、引退後の夏以降は体もプレーも、梶原監督が目を見張るほど成長を遂げている。高校では失敗を恐れず、思い切りチャレンジして定位置を奪い取れ。166㍍、64㍍。右投げ左打ち。